

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 役員選任「立候補意思表明書」

2025年 5月 3日 氏名 濱田 革

【JHF 活動履歴】
2009～2017 北海道ハング・パラグライディング連盟理事長
2018～現在 同 副理事長
2009年4月～ 道連盟事務局運営、無料体験会・安全性セミナー・教員更講習・道内各地大会の支援等を毎年実施・デジタル無線の普及・「北海道スカイスポーツフェア」(北海道スカイスポーツ協会と道内市町村共催)参加
2015、2022、2023年にPGJリーグ(ニセコスカイラリー)主催
2021年～ JHF理事(HG・PG競技委員会、振興委員会担当)

【JHF 定款への理解】(どれかひとつを選択してください)

☐熟知している ☒ある程度理解している ☐一通り目を通した ☐これから目を通す

【立候補意思表明】公益社団法人としての JHF の活動に関するご自身の考え。

その際に下記2点を含めて下さい。

(1) 今後の JHF が活動していくべきと考える事

(2) ご自分が役員として実践していきたい事

JHF は、日本のハング・パラフライヤーを統括する団体として、ハング・パラグライディングの健全な振興を図ることが第一目的である。このため、減少が続いているフライヤーの育成・安全性の向上・全国各地のフライトエリアとフライヤー活動の支援・競技会を通じたフライト技術の向上と可能性の拡大等の活動が重要である。

具体的には、各都道府県連盟及びフライヤーと一体となって、教本の作成、教員の養成、安全セミナーの開催、競技会の開催、体験会やイベントの実施、一般社会へのPR等を通じて、前述の目的達成を行う必要がある。

また、現在ドローンの規制と商業利用が進められているが、フリーフライト環境の整備やフライヤーの地位向上のため、関係機関との連絡調整や交渉も重要と考える。

今回、3期目の立候補となるが、1期目のコロナ過で活用したリモート参加とリアル活動を組み合わせれば、東京からの遠隔地においても、効率的かつ効果的にさらに活動を広げることができると考えている。

また、2期目においては、学生時代に活動を始めたフライヤーが、卒業後活動を止めてしまうことが多い課題や一般の方々へこのスポーツを良さを普及する取組について取り組んだ。まだ成果を出すには至っていないが、ハング・パラ振興委員会に新たなメンバーも加わり、これまでにない取組も進んでおり、必ずや成果を出すことができると考えている。

3期目に選出された場合は、引き続き、フライヤーの増と安全対策の徹底という二つの大きな課題に向き合っていきたいと考えている。今後少子化が見込まれる中、若者にどのようにしてこのスポーツの素晴らしさを伝えて、選択してもらうのか、末端のフライヤー一人一人に安全意識や技術向上をどのように普及させて行くのかを追求していきたい。そして、これらの目標に向けた活動を効果的に行うために、JHF組織がなすべきこと、さらに各都道府県連盟やフライヤーとどのように連携するのが有効なのかを常に意識していく。

また、私は2021年度で定年退職し、約3年間、ハングとパラでフライトしながら、全国各地のエリアを訪問した。各地のエリアで新たな出会があったが、十分に交流ができたとは言えず、各地のフラ

イヤーとJHFとの距離を改めて実感したである。昨年より、ホームエリアでスクールを開校し、夏期は北海道を離れることが困難になったが、冬期は引き続き本州へ遠征する予定であり、各地のフライヤーと交流を行い、理事会活動に生かしていきたいと考えている。

最後に、2期目の立候補時にも表明したが実現できなかった目標を再度表明したい。

総会、理事会での議論やフライヤーから、「競技会に参加する以外に、JHF事業を実感できる(に参加する)機会が各都道府県により温度差がある」との意見がある。これは各都道府県で所属するフライヤー数が大きく異なり活動予算や事務局体制に大きな差があること、地元にフライトエリアがあるかどうかなどが大きな原因と考えられる。今後もフライヤーの大幅増が見込めない中、少ない予算の中でJHFの事業を各フライヤーにどのようにして享受してもらうのか、事業のあり方だけでなく正会員やフライヤー登録制度を含めて検討する時期に来ているのではないかと考える。そのため、専門委員会の設置など、現在の課題を洗い出し新たな体制を検討する取組を進めていきたい。

文字数制限はありません、また必要に応じて用紙を増やして下さい。